



ARIMASS Letter

[Association for Risk Management System Studies]

危機管理システム研究学会 2005年6月
第21号

第三代会長に就任して

危機管理システム研究学会会長
村上 處直

社長の後任として、本年総会において第三代会長に就任いたしました。これからの任期の二年間、みなさま方のご協力を得ながら頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。名誉会長兼常任理事の徳谷初代会長、前代会長は常任理事・参与として本学会をサポートしていただき、副会長は上野治男副会長（松下電器産業㈱）、土肥孝治副会長（土肥法律事務所）の両氏にひきつづきお願いしました。初代会長の徳谷名誉会長に誘われてこの学会に入ったのは、私の専門が都市計画の領域で安全問題（危機管理）をやる「都市防災」で、人間の存在を中心に考えなければならない研究領域で、工学系だけでなく、あらゆる専門家の協力が必要だったからです。学会に入りいろいろな研究分科会に参加させていただき、それまで交流のなかった専門分野の方々とお会いでき、本学会がユニークでいかに大切な場であるかを認識しました。

本年度の大会は東京医科歯科大学で行い多くの会員に加え会員外の参加者も見られ、活発な討論がなされ成功裏に終わることが出来ました。大会の運営を準備された寺本理事はじめご協力をいただいた関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。来年度の大会は昭和大学（担当内田理事）で行うことに決まり、期日は5月27日（土曜日）です。会員各位におかれましては来年の大会に向け研究を進め、実りある一年となることを希望します。

危機管理とカリスママネジメントという概念は、われわれの社会に安全や安心を脅かすものが内在している事を前提にしています。これまでいろいろな国家的事業で危険の存在を認めてこなかったわが国も、1995年の阪神・淡路大震災、2001年のニューヨーク世界貿易センターのテロ事件以降、ようやく危機管理の大切さを認めるようになってきました。これらの事件は危機管理で最も大切なのは人類の社会環境システムをどのように理解するか、そして人間そのものの存在をどのように理解するかにあることを教えてくれています。このような時代に「危機管理システム研究学会」という名称は優れた内容を持っており、学際的専門家の益々の活発な意見交換が期待されます。

本学会発展のために全力を尽くしていく所存ですので、会員のみなさま方のご協力ならびに、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

	目	次
第三代会長に就任して 1	分科会報告 4
2005年度会員総会報告 2	日本経営分析学会賞受賞 7
論文集原稿募集のお知らせ 4	事務局からのお知らせ 8

危機管理システム研究学会 2005 年度会員総会報告

議案

- (1) 2004 年度活動報告に関する件
- (2) 2004 年度収支決算報告に関する件
- (3) 監査報告
- (4) 役員を選任に関する件
- (5) 2005 年度活動計画〔案〕に関する件
- (6) 2005 年度予算書〔案〕に関する件
- (7) 第 5 回年次大会に関する件
- (8) その他

2005 年 5 月 28 日（土曜日）東京医科歯科大学歯学部特別講堂において、危機管理システム研究学会会員総会が開催され、議長 辻純一郎のもとで以下の議案が審議の上、承認された。議案(1)(2)については別記の活動報告説明がなされ承認された。議案(5)(6)については社会長から説明があり、承認された。監査報告では斎藤淳監事より 2004 年度収支決算書の監査報告がなされ、承認された。議案(4)の役員を選任に関する件については議長より会則 14 条の規定により常任理事、理事、幹事の選任の提案がなされ、

承認された。議案(7)次回の第 6 回年次大会は、2006 年 5 月 27 日（土曜日）、昭和大学において開催することが決定し、大会実行委員長として開催校の内田英二教授（当学会常任理事）が引き受けられたことの説明が社会長よりなされた。

2004年度収支決算書

自 2004年4月 1日
至 2005年3月 31日

収	入			支	出			
	予	算	決		算	決	算	差
前期繰越金	1,622,417		1,622,417	0	大会費	300,000	232,847	67,153
会費収入	1,718,000	(1)	1,895,000	△ 177,000	分科会研究費	180,000	177,120	2,880
(個人会費)	918,000		945,000	△ 27,000)	年報費	300,000	0	300,000
(賛助会費)	800,000		950,000	△ 150,000)	会報費	250,000	317,350	△ 67,350
雑収入	20,000	(2)	12,015	7,985	名簿費	65,000	0	65,000
				0	会議費	40,000	9,300	30,700
					通信費	50,000	46,670	3,330
					事務消耗品費	80,000	42,671	37,329
					旅費交通費	50,000	7,100	42,900
					諸手数料	600,000	(3) 586,545	13,455
					インターネット関係費	40,000	40,320	△ 320
					雑費	30,000	2,646	27,354
					パンフレット印刷費	260,000	253,050	6,950
					予備費	230,000	0	230,000
					次期繰越金	885,417	1,813,813	△ 937,484
合計	3,360,417		3,529,432	△ 169,015	合計	3,360,417	3,529,432	△ 169,015

(支出合計) 1,715,619

- (1) 2003年度個人会費@6,000円×1名=6,000円
 2004年度個人会費@6,000円×152名=912,000円
 2005年度個人会費@6,000円×4名=24,000円
 2004年度学生会費@3,000円×1名=3,000円
 2003年度賛助会費@50,000円×17口=850,000円
 2004年度賛助会費@50,000円×2口=100,000円
 2004年度個人会費納入率 90.0% (

- (2) 雑収入: 会員よりの寄付金および銀行受取利息

- (3) 事務作業費および振込手数料他

普通預金残高 1,609,980
 現金残高 203,833
 1,813,813

【監査報告】領収書・預貯金通帳・残高との照合のうえ、2004年度の収支決算書は会計帳簿などの記録と一致し、危機管理システム研究学会の収支状況を正しく反映しているものと認めました。

2005年4月28日 幹事 齋藤 淳 小島 義輝

2005年度予算書(案)

自 2005年4月1日
至 2006年3月31日

(単位:円)

収		入		支		出	
	予 算	前年度予算比		予 算	前年度予算比		
前期繰越金	1,800,000	177,583	大会費	350,000	50,000		
会費収入	(1) 1,795,000	77,000	分科会研究費	200,000	20,000		
(個人会費	945,000	27,000)	年報費	(2) 600,000	300,000		
(賛助会費	850,000	50,000)	会報費	(3) 270,000	20,000		
雑収入	20,000	0	名簿費	(4) 65,000	0		
			会議費	40,000	0		
			通信費	50,000	0		
			事務消耗品費	70,000	△ 10,000		
			旅費交通費	40,000	△ 10,000		
			諸手数料	(5) 600,000	0		
			インターネット関係費	40,000	0		
			雑費	30,000	0		
			パンフレット印刷費	0	△ 260,000		
			予備費	230,000	0		
			次期繰越金	1,030,000	144,583		
合 計	3,615,000	254,583	合 計	3,615,000	254,583		

- 注記
- (1) 個人会員 @6,000X175名X0.9=945,000
賛助会費 @50,000×17口=850,000
 - (2) 年報費：FD入力作業及び製本費+郵送料
 - (3) 会報費：印刷費4回+郵送料
 - (4) 名簿印刷費
 - (5) 事務作業費及び諸手数料代

危機管理システム研究学会論文集原稿募集のお知らせ

ARIMASS Letter 2004年11月特集号でお知らせした新論文制度により、2005年度の論文集原稿を募集します。本年度は、査読原稿に加えて、査読原稿に要求される厳密さ、形式等の要件を満たさなくとも、会員の知識向上に役立ったり、業務上有益となる知見などを扱った原稿についても報告文として掲載することを予定しています。なお、5月に催された年次総会発表論文を所定の形式として応募することも可能です。

みなさまの奮っての御応募をお待ちしております。

応募は、学会事務局内編集委員会（査読担当委員 太田三郎（千葉商科大学）、鈴木敏正（㈱日本総研））まで、締め切りは、9月末日とします。

分 科 会 報 告

【RMS（リスクマネジメントシステム）研究分科会】

主査：常任理事 指田 朝久（東京海上日動リスクコンサルティング）

（2005年度活動計画 および研究会員募集）

2005年度は基本的には2004年度の活動を継続発展させていきます。今年度は昨年度から引き続き「リスクマネジメント用語WG」「リスクマネジメント規格の国際比較WG」の活動を継続するとともに、「内部統制とリスクマネジメントWG」を2つに分割し「内部統制とリスクマネジメントの事例研究WG」および「COSOERMフレームワークの研究WG」を立ち上げ、合計4つのWGを平行して運営していきます。いままでどおり各WGごとの打ち合わせとメーリングリストによる意見交換を実施し、年度末には1年間の研究報告書を作成します。各WGは平均して2ヶ月に1回程度のWGの開催を予定しています。分科会全体としては月に1-2回のWGの開催となります。

活動そのものは各WGの会合で実施いたします。活動内容はその都度リスクマネジメントシステム研究分科会全体のメーリングリストで情報交換を行います。研究会に出席出来ない場合はメーリングリストによる意見発表を歓迎します。この4つのWGはそれぞればらばらにあるのではなくリスクマネジメントシステム規格の研究に統一されてこそ意味があるので各WG間の相互の交流も歓迎します。

学会の研究分科会ですので研究報告書を作成いたします。どうぞ皆様ふるってご参加ください。

ワーキンググループの紹介

- ①リスクマネジメント用語WG I リスクマネジメントに関する用語規格ISOガイド73およびJISQTR0008につき各用語の解釈意味などの研究を行います。
- ②リスクマネジメント規格の国際比較WG イギリス、カナダ、オーストラリアなど各国のリスクマネジメントに関する規格をJISQ2001と比較研究していきます。
- ③内部統制とリスクマネジメントの事例研究WG 実際の事件事故事例や実際に体制構築をしている企業について、内部統制とリスクマネジメントの観点から分析していきます。
- ④COSOERMフレームワークの研究WG COSOのERMフレームワークが発表されています。秋にも日本語訳が出される予定ですのでそれを用いて内容を研究していきます。

【リスク事例サロン分科会】

主査 島田 公一（あいおい損害保険㈱）

（第17回リスク事例サロン分科会開催報告）

「リスク事例サロン分科会」はマスコミ等で取り上げられた事件や危機事例を題材に、会員間で自由に危機管理・リスクマネジメントの観点から情報交換や意見交流を行うことを目的としています。

本分科会は開催の都度参加者を募り、サロンと言う名前のおり飲食しながらテーマに関連して自由に意見交換を行う会費制の分科会です。今回は、第17回分科会の報告をいたします。

1. 開催日時 2005年3月9日（水）午後6:30～8:30

2. 開催場所 於 東洋経済新報社 9階会議室

3. 参加者（15名）

太田、河東、神田、北澤、小島（直）、島田、須曾、関、辻、仲間、中村（昌）、能崎、宮川（和）、吉川、阿部（事務局）※50音順・敬称略

4. テーマ 「米国における産業施設の対テロ防御策の動向」

5. 内容

小島直樹氏（石油コンビナート高度統合運営技術研究組合）より、米国で9・11以前から官民共通の大きな課題として取り組まれている産業施設の対テロ防御策について報告があり、報告後、飲食しながら参加者による自由発言・情報交流が行われました。参加者からの主な発言は次の通りです。

<非常時の人の反応と行動について>

○アメリカは地下のガレージ爆発事故に遭遇した経験がある。1階のレストランで食事中非常ベルが鳴っても誰も動かなかった。アメリカは誤動作が多いから動かないのか？

○アメリカは重大事件がないとアクションを起こさない。ベルが鳴っても誤動作かと思う。

○日本でも火災報知器がなると止めてしまう。実際なのか誤報なのかわからない。

しよっちゅうなるので慣れになっている。まず、何かを確認してから行動する傾向がある。

○一般に、遠くにあるリスクや、頻度の少ないリスクインパクトへの反応は弱く、非難行動も緩慢になる傾向が報告されている。インパクトの弱いリスクでも、重大な結果をもたらすリスクは、すり込みを行って認識させる必要がある。

○既知のリスクと未知のリスクでは対応がことなるが、何が結果良しとでるかはわからない。NHKの東京大空襲の生き残り番組特集で、安全だと思われた防空壕で多くが亡くなって、危険だと思われた外の環境が命を守った例が紹介されていた。既知であってもリスクの予測は難しい。

○誰かが騒げばパニックになる。そういう心理状態になると安全バイアスがかかる。

○工場ではアラームがなっても、何があったかわからない。従業員はアラームがなったら何をすべきなのか考える必要がある。

○まず、場所に行く。確認をして何もなければ、以後は何も行動しなくなる。たまにしか起きないとリスク認知が低くなる。

○一般に警報が鳴っても電気がついていたら逃げない。火災は特に目に見えるとパニックになるが見えるまでは動かない。

○既知と未知についてのリスクアセスメントをしないといけない。アメリカでは過失に対する対応が厳しい。可能な限りの注意義務を課す。

<リスクコミュニケーション>

- リスクコミュニケーションについて工場の周りのひとが危険にさらされる。情報を伝えると、得たほうが判断する。情報が知らされていても、視覚的に閉ざされればパニックする。
- リスクコミュニケーションは考えなければいけない。

<テロリスクを補償する保険>

- 保険の世界ではテロ免責しないと受けてはくれない。一般にターゲットととなりそうな施設や高額なビルほどテロカバーを買うのは難しい。
- 日本に居住する外国人で、テロリストの氏名と思わしき預金や保険契約は調査対象となる。

以上

メールアドレス登録・変更通知のお願い

本分科会の開催は開催の都度学会のホームページおよび電子メールでご案内しますので、メールアドレス未登録の方または登録済メールアドレスに変更がある方は学会事務局までご連絡ください。

【MRM（メディカルリスクマネジメント）分科会】

主査：寺本 研一（東京医科歯科大学）

2004年度の活動は5月28日の総会がひとつの区切りになりました。MRM分科会は様々な職種の人が集まっています。それぞれの得意とする分野の経験知識をメディカルリスクのマネジメントに応用できればと考えています。来年の総会は今年同様医学部（昭和大学）が主催となります。したがって、医療問題も重要なテーマのひとつとなりそうです。今年の実績を踏まえ、より問題を掘り下げ、メディカルリスクマネジメントの新しい方向を打ち出していきたいと思えます。7月より今年度の活動を始めます。多くの方の参加をお待ちしております。

太田理事、日本経営分析学会賞を受賞

理事の太田三郎先生が平成17年度の日本経営分析学会賞を受賞されましたので皆様へご報告いたします。実務家の方に学会賞が何を意味するか分からない方が多いと思いますので簡単に解説させていただきます。博士号の取得も大変な日本で、さらに学会賞はなかなか受賞できません。博士号も商学博士、経営学博士は学会全体でも数十人程度です。日本では医学、工学、経済学、法学は博士が多いのですが、商学博士、経営学博士をなかなか出しません。最近、博士課程修了者に課程博士をだんだん各大学で授与し始めてきております。通常、博士論文は60歳ぐらいにならないとなかなかもらえないという悪しき慣習が日本の学界にはあります。また、学会賞も毎年1名程度ですからこれもなかなか難関です。学会賞の対象論文は「企業の倒産と再生」・同文館出版です。これは太田先生の経営学博士論文を出版したものです。博士論文が学会賞の対象になることは論文自体の質の高さによるものです。博士論文は1年以内に公刊することが規則で義務づけられております。今回、太田先生は経営学博士を東京農業大学から授与され、学会賞をとられるという栄誉を受けております。

中央大学専門職大学院教授 徳谷昌勇

オピニオン

このたび、入会させていただきました森井と申します。
これまで法人を対象に、損害保険及び融資の仕事をしてきた関係から、財務の視点からみたリスクマネジメントについて関心を持っておりました。この4月からはコンプライアンス及びリスク統括関係の部に異動となり、内部統制等についても実践的な視点から取り組んでいきたいと考えています。この会においては、諸先輩の皆様にご指導頂きながら研鑽を深めていきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

森井 昭夫（ニッセイ同和損害保険株式会社）

【編集後記】

“危機管理システム研究学会”の広報編集委員会の役割は、年4回のARIMASS Letterの発行と危機管理システム研究学会論文集の発行です。

ARIMASS Letterは会員各位のための学会内の動きをお知らせする情報誌としてお届けします。イワシ会員からマグロ会員まで（この表現には注釈が必要ですが、当学会には高級マグロのように価値単価が“超”高い会員がおられますが、会費を払って食べちゃえば栄養価値は“同じ”という委員会後のアルコール入りの議論で出てきた用語ですが、全ての会員は同じ、という意味です。急に猛暑となり、つい、こんな表現となってしまったことお許し下さい。）ARIMASS Letterを参考に、各分科会に積極的に参加頂き、危機管理システム研究マグロになっていただきたいと思っています。

また、危機管理システム研究学会論文集の発行は新規スタートです。奮って論文を投稿いただきますようお願いいたします。（中村 陽子）

<事務局からのお知らせ>

1.分科会連絡先

教育実践分科会

主査：後藤和廣、TEL. 03-3291-8921/Fax. 3291-8930

e-mail:gotokaz@aol.com

リスクマネジメントシステム研究分科会

主査：指田朝久、TEL. 03-5288-6584(直)/Fax. 03-5288-6590

e-mail:t.sashida@tokiorisk.co.jp

リスク事例サロン分科会

主査：島田公一、TEL. 03-5789-7224/Fax. 03-5789-6680

e-mail:ko-shimada@ioi-sonpo.co.jp

メディカルリスクマネジメント分科会

主査：寺本 研一、TEL/FAX03-5803-5929

e-mail:teraken.srgl@med.tmd.ac.jp

2. 新入会員紹介

氏 名	所属機関・職 名
村田 宣夫	帝京大学 溝口病院
土屋 和之	千葉商科大学
鴻上 喜芳	(財) 損害保険事業研究所
和田 修一	エヌ・ケイ・リスクコンサルティング(株)
川村 芳江	昭和大学

3. 住所・所属等変更の連絡方法

会員各位の自宅のご住所・電話番号・所属機関の名称・所在・電話番号・職名等について変更の生じた場合には変更前と変更後を並記のうえ必ず文書にて事務局宛ご連絡ください。

発行 危機管理システム研究学会

〒140-0013 東京都品川区南大井 6-3-7

アバンネット南大井ビル (株)リムライン内

TEL. 03-5753-0080 FAX. 03-5753-0086

e-mail: arimass@muh.biglobe.ne.jp

2005年6月30日発行

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~arimass/>

印刷 株式会社 文典堂 03-3762-0721